

## 8 / 3 フィールドワーク・公開講座

のべ20名参加で、北川茂さんに、その実践を元にして、平和教育実践のポイントを教えてくださいました。

午前は、北川さんの案内で能美市内の忠魂碑や墓地、新町の集落を巡り、寺井公民館で盧秀吉さんから、新町（朝鮮人部落）の歴史についてお話をうかがった。

忠魂碑では、戦後忠魂碑がたどった歴史を知り、石碑に刻まれている戦没者名簿から子どもたちと学んだ実践について聞いた。忠魂碑は戦前、「聖戦」意識の高揚に利用されたものではあるが、市民にとっては、戦死した我が子や夫、父に関わる大切なものであったと思う。その忠魂碑をGHQによる破壊から守ろうとした人々の心中を思い、複雑な気持ちになった。また、戦没者名簿にある女性の名前から、豊川海軍工廠の悲劇を突き止めていった北川さんと子どもたちの実践に、子どもたちの周りにある実際の事物から歴史を学ぶ大切さを感じることができた。

盧さんからは、能美市新町ができた経緯について語っていただいた。満州事変後に国内労働力の穴埋めを、日本政府が朝鮮からの徴用、強制連行で補ったこと。昭和9年の手取川大洪水ではそうして日本に来ていた朝鮮人の方たちが復興に従事したこと。戦後も、様々な差別に抗しながら、朝鮮人としてのアイデンティティを守り育ててきたことを伺った。第2次世界大戦＝アメリカとの戦争ではなく、十五年戦争において日本政府が犯してきた加害の歴史に向き合い、未来への指針として想起する事の大切さを強く感じた。寺井公民館に向かう前にうかがった新町で聴いたお話、集落のたたずまいからも、なかなか見えない在日の方とつながりたいという思いを強くした。

午後は、白山市博物館で昭和三年にアメリカから送られた青い目の人形「ローラ・マーガレット」に会ってきた。当時の対日敵視のアメリカの社会で、多くの人々の寄付が集まり、子どもたちが服を作って、12000体もの人形が日本にやってきたこと。日本の学校では盛大に歓迎会を行ったこと。戦中の敵国文化排除を受けて、たくさんの人形が焼かれたり壊されたりしたこと。誰かが人形を匿い、県内では3体の人形が残されていることなど、一体の語らぬ人形が沢山のことを教えてくれた。

北川さんの実践のポイントは、教師としてのアンテナの高さもさることながら、子どもたちと共に、子どもたちが感じた疑問を解決していく姿勢にあると思う。どんな立派な説諭でも、どんなに価値の高い情報も、ただ伝えるだけでは教科書と同じで、子どもたちの心には残らないかもしれない。北川さんのお話からは、自分たちで調べ、疑問が膨らみ、情報を発信して核心に迫っていく子どもたちの姿がしっかりと見えてくる。参加者には、北川さんに学び、子どもたちと共に学ぶ平和教育の実践を期待したい。